

館長コラム(52) ツバメの乱舞

我が家周辺では複数のツバメ *Hirundo rustica* が乱舞しています。今年のツバメは例年より多い気がします。ツバメは子育ての様子が観察しやすい野鳥の一つです。その理由は、私たち人間の住宅の内や外壁で営巣し、子育てをしているからです。これはカラスなどの天敵から身を守る「道具」として、人間の住宅を巧みに利用しているため（このような生物は「シナントロップ」と呼ばれます）と考えられます。我が家は築30年になりますが昨年初めてツバメの巣のある家になりました(写真1)。昨年は巣立ちはありませんでしたが今年は我が家の巣からも数羽が巣立ちました。

ツバメはスズメ目ツバメ科に属する鳥で世界中に分布しています。また、よく知られているように北半球で繁殖したツバメは赤道付近や南半球で繁殖期以外の時期を過ごします。これを「渡り」といいます。ツバメは春にやってきて秋に去ります。ヨーロッパのツバメはアフリカに、日本からは東南アジアに、北米からは南米に「渡り」をします。

ツバメが餌の虫を捕まえる様子を見ていると彼らの飛翔能力の高さに驚きます。空中で素早く向きを変えて虫を捕まえる姿はまさに「燕返し」です。写真2(2026年5月30日撮影)は普通に飛んでいるときの姿です。背中が黒、腹は白、鼻先と喉は赤です。尾羽の白い一列の模様が素晴らしいです。

ただツバメの雛の糞は迷惑です。雛は巣の外へお尻を向けて排泄するため、糞は巣の下へ落下します。この糞は黒と白の部分があり、黒は消化管から出た本当の便ですが、白は腎臓から出た尿酸を含む固体(ヒトでは尿素を含む尿)です。また鳥や爬虫類は哺乳類のように肛門や尿道の区別がなく総排泄口とよばれる出口から排出されます。卵もここから出て精子はここから入ります。とにかく雛の糞が巣の下にたまって汚いです。我が家ではイソヒヨドリも枯れ枝などを集めた巣で雛を育てます。イソヒヨドリの雛の糞は親鳥がくわえて遠くに捨てに行くので糞がたまることはありません。私としてはイソヒヨドリの方がありがたいです。



1



2

長野公民館だより

館長 米本 憲市 主事 山本 遥

事務所:田辺市中三栖805番地 三栖コミュニティセンター内

TEL:(0739)34-0022

FAX:(0739)33-0836



体育行事の開催予定について

7月30日(木)、清瀧にて体育委員会を開催し、今年度開催する体育行事について協議を行いましたので、その内容をお知らせします。

◆ 町民ボウリング大会のお知らせ ◆

場所:オークワ・パビリオンシティ田辺店内(C館2階)

あからボウル

日程: 10月17日(土)18時現地集合 18時20分開始

申込:参加費無料。9月16日(水)申込締切。

参加をご希望の方は体育委員までご連絡ください。大人から子どもまで、どなたでもご参加いただけます。景品もご用意する予定です！

地域交流の機会として、ぜひご参加ください。

お盆時期の恒例行事として町民ソフトボール大会を長らく行ってきましたが、近年の猛暑や参加者の高齢化を踏まえ、昨年度は開催を見送ることとしました。今年度は、それに代わる新たな体育行事として、幅広い世代の皆さまに楽しんでいただける町民ボウリング大会を開催します。

◆ モルック大会のお知らせ ◆

場所:長野小学校グラウンド

日程: 10月中～下旬(土・日)午前中の開催を予定

雨天時中止

モルック大会も開催予定です。日程が決まりましたら公民館だよりにてお知らせいたします。モルックは子どもから大人まで楽しめるニュースポーツですので、ぜひお気軽にご参加ください。地域の皆さまが交流を深める機会となれば幸いです。多くの方のご参加をお待ちしております。

主な掲載内容 ページ

・体育行事の開催予定について	1
・ホタル学習と発表会について	2
・校内整備作業について	2
・衣笠中学校 伏魔野防災学習について	3
・館長コラム(52) ツバメの乱舞	4

移動図書館 (8月の予定)

8月25日(火)
9時30分～10時10分
長野東原

長野館区人口統計

人 口 :	576	人
前月比 :	- 1	人
世帯数 :	316	世帯
前月比 :	- 1	世帯

【田辺市のホームページ(生涯学習課公民館係)では公民館だよりをカラーで閲覧することが可能です】

～長野小学校 ホタル学習と発表会～

6月25日(木)、長野小学校でホタル学習の発表会が行われました。

長野小学校では、地域の自然に親しみ、ホタルの生態や環境保全について学ぶ「ホタル学習」に継続して取り組んでいます。今回は全校児童が参加し、5・6年生がクイズと紙芝居を通してこれまでの学習成果を発表しました。

最初に行われたクイズでは、「ホタルの卵の色は?」「ホタルに毒はあるか?」といった問題が出され、下級生たちは楽しみながら答えを考えていました。その後、今年制作された郷明会の大型紙芝居「ゲンジボタルのこうたろうちゃん」を5・6年生が披露し、紙芝居では、ゲンジボタルの誕生から次の世代へ命をつないでいくまでが描かれ、下級生たちは物語を通してホタルの一生について学びました。

紙芝居は、今後もホタル学習で活用され、子どもたちが地域の自然や環境の大切さを学ぶ教材として受け継がれていきます。



大型紙芝居「ゲンジボタルのこうたろうちゃん」。ストーリーは郷明会ホタル部会長の那須勝美さん、キャラクターデザインとイラストは長野在住のイラストレーターである森恵子さんが担当しました。

◆ 長野小学校 校内整備作業について ◆

長野小学校にて、校内整備作業を実施しています。次回の実施は9月5日(土)朝7時からです。雨天中止の場合の予備日は6日(日)となります。

9月26日(土)には運動会が開催されます。グラウンド内の草刈りや土入れ作業、校内のエアコンフィルター清掃などを行います。ぜひ力をお貸しください。



衣笠中学校が伏菟野で防災学習を行いました

平成23年9月、上陸した台風12号は西日本各地に大きな影響を及ぼしました。中でも紀伊半島では、記録的な大雨により大規模な土砂災害が発生し、和歌山・奈良・三重を中心に甚大な被害をもたらしました。

あれから15年の歳月が流れようとしています。

衣笠中学校では校区内の伏菟野で起こった痛ましい災害現場を生きた教材として活用し、令和3年度から継続して防災学習を実施しています。

防災学習は1年生が取り組むもので、深層崩壊の起こった現地では、この学習が始まった当時の区長であった宮永昌幸さんから当時の様子や地域の状況についてお話しいただきました。現地は災害後の復旧・整備により、現在では当時の様子をうかがい知ることが難しい場所となっています。そのため、地域の方から直接お話を伺い、当時の状況を学ぶことは、生徒たちにとって大変貴重な機会となりました。

その後、学校へ戻り、災害当時の伏菟野区長である谷口順一さんからお預かりした写真や映像資料を用いて、当時の被害の様子について学びました。

土砂で押しつぶされた住宅や車の様子、深層崩壊地点の空撮写真、その周辺地域で道路が濁流により寸断され通行不能となった様子などが映し出されると、生徒たちは現地見学だけでは想像することが難しかった被害の規模に驚き、災害の恐ろしさを改めて実感していました。

今回の学びが、生徒たちの将来にわたって、防災への備えを考える一助となることを期待しています。

